

事業所名

たいしのいえ

支援プログラム（参考様式）

作成日

2024年

11月

6日

法人（事業所）理念		児童が安心して過ごし、成長できる場所を提供する。								
支援方針		「学習」を柱とし、人とのふれあいを重視した療育。人が集い、自由な交流を持ち、互いに成長する「憩いの場」を目指す。								
営業時間		9時	30分	から	18時	30分	まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容										
本人支援	健康・生活	健康な心と体を育て、健康で安全な生活を送ることができることを支援する。手洗い・うがい・検温などの自身の健康管理の身ではなく、咳エチケットや体臭・身だしなみなど他者が不快にならないようなエチケットを身につけます。 不規則な生活にならぬよう声がけて、児童の生活リズムを守ります。								
	運動・感覚	生活に必要な筋力（姿勢保持）や日常の活動の基となる筋力をストレッチや投げる・蹴る・避けるなどの基本動作を中心に軽度な運動で鍛えます。 遊びやゲームを通して、感覚を鋭敏にし認知力を高めます。PCや木材、手芸などを通して触覚や色覚、視覚・聴覚を刺激し感覚を豊かにします。								
	認知・行動	視覚・聴覚・触覚等の感覚を十分利用して、必要な情報を収集する認知機能の発達を促す支援を行います。 得意なこと・嫌いなことを聞き取り、良い面は大きくし、悪い面は「対処」できるよう支援します。特に嫌いなことは「離れること」「一つ良い所を見つけること」「嫌な理由を言葉にすること」「相手が自分をどう思うか考えること」「のけ者にしないこと」など認知しての行動変容を促す支援をします。								
	言語 コミュニケーション	話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う。主に「あいさつ」に始まり身の回りの出来事など言葉がけによって、年長者との対話を通じて言葉を学びながら声を発する練習をします。職員（ファシリテーター役）は、他児も巻き込みながら児童が発語できるよう促し、最後は児童同士で対話できるよう促します。								
	人間関係 社会性	人との関係性を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。学習や運動、そして遊びを通して人の動きを「まねる」ことで社会性や対人関係の方法を身につけます。								
家族支援		児童の様子と一緒に観察し家庭での関りの参考にってもらう。 ご家族への支援として職員を派遣し一緒に療育に携わってもらう。				移行支援		高校生の卒業後の進路相談や対策、就労移行支援に進む児童には利用中からの移行がスムーズになされるよう支援する。		
地域支援・地域連携		地域の喫茶店に出向いて「自立サポート」の場を提供してもらう。 地域の社会的資源を児童に紹介し活用する機会を与える。				職員の質の向上		月に1度テーマ研修を行い、常に探求しながら向上し続ける環境である。 外部のセミナーに個々で参加し、教養を高める。		
主な行事等		誕生月の誕生会 0Bを呼んでの同窓会								